

保育士養成課程における施設実習の現状と課題 (2)

The second report of the current status and issues of the practical training as part of the childcare worker development process at welfare facilities

石田 慎二*・西村 真実**

Shinji Ishida

Mami Nishimura

This paper investigated the degree to which objectives were achieved in preparatory training for practical training at welfare facilities for persons and children with disabilities and how this is related to the trainees' self-assessment of the practical training. The results revealed that objectives were achieved to a certain degree with regard to the basic attitudes needed for the practical training and setting training goals. On the other hand, it was shown that trainees did not acquire an in-depth understanding of the reality of the welfare facilities for persons and children with disabilities and the persons and children who use the facilities, and how to write training records. Moreover, it was revealed that these points were related to the self-assessment of the practical training. These results indicate the importance of increasing an understanding of the reality of welfare facilities for persons and children with disabilities and the persons and children who use the facilities, and how to write training records.

I. はじめに

本講の目的は、保育士養成課程における施設実習での学びを深めるための事前指導のあり方に役立つ資料を提供することである。

保育士養成課程の保育実習は、必修科目である「保育実習Ⅰ」(実習・4単位:保育所実習2単位・施設実習2単位)と、必修選択科目としていずれかを選択する「保育実習Ⅱ」(実習・2単位:保育所実習)、「保育実習Ⅲ」(実習・2単位:保育所以外の施設実習)が設定されている。

帝塚山大学現代生活学部こども学科(以下「本学」とする。)において、保育士養成課程の保育実習Ⅰの施設実習に位置づけられる科目が施設実習Aであり、その事前事後指導を行う科目として保育実習事前事後指導Ⅱがある¹⁾。施設実習は、保育所以外の居住型児童福祉施設等および障害児通所施設等において実習を行うことになっており²⁾、本学では障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所の4つの施設種別で実習を実施している。保育実習Ⅰの施設実習を障害児者福祉施設³⁾のみで実施しているのが本学の特徴である。

石田・西村(2019)では、障害児者福祉施設での施設実習において保育士養成課程の施設実習の目的がどのくらい達成されているかを検討した。その結果、施設実習の充実度は非常に高く、実習施設および利用児者の理解、安全・衛生の配慮、さらに利用児者とのコミュニケーションおよび関わりといった施設実習の学びを深めていく上で前提となる内容については、ある程度目的が達成できていることが明らかになった。その一方で、利用児者のニーズや支援計画、地域や家庭との連携、施設職員の職業倫理などについては、深く理解するまでには至っていないことが明

* 帝塚山大学 教育学部 教授

** 帝塚山大学 教育学部 准教授

らかになった。

これらの結果は事前指導の内容に関して示唆を与えるものも多くあった。保育士養成課程における障害児者福祉施設での施設実習の事前指導を取り上げて検討した先行研究としては、東・須河内・村田（2003）、室谷（2015）などがあるが、この分野の研究は少なく、検証された取り組みが積み重ねられているとは言い難い。

そこで、本学の保育実習事前事後指導Ⅱの事前学習において到達目標がどれくらい達成されているか、またそれが施設実習の自己評価にどのように関係しているかを検討する。さらに、保育実習事前事後指導Ⅱの授業および課題以外の自主学習の取り組みがどれくらいなされているかについても検討する。

Ⅱ. 研究方法

1. 調査対象

本学で開講されている保育実習事前事後指導Ⅱおよび施設実習Aを2018年度に履修した学生90名（女性74名、男性16名）を対象とした。なお、施設実習Aの実習施設種別の内訳は、障害児入所施設が13.3%、児童発達支援センターが4.4%、障害者支援施設が42.2%、指定障害福祉サービス事業所が40.0%であった。

2. 調査方法

本調査では、事前アンケートと事後アンケートを実施した。まず、施設実習Aの実習開始直前の授業において、自分自身の保育実習事前事後指導Ⅱでの事前学習および自主学習（事前指導の授業および課題以外の取り組み）を振り返って「保育実習事前事後指導Ⅱ アンケート」への回答を求めて提出させた。2018年度に保育実習事前事後指導Ⅱおよび施設実習Aを履修した90名の学生のうち、すべての学生から回答を得た。

さらに、施設実習Aの実習終了後に自分自身の実習を振り返って「施設実習A 事後アンケート」への回答を求め、本学の実習センターへ提出させた。2018年度に施設実習Aを履修した90名の学生のうち、すべての学生から回収した。

3. 調査項目の設定

1) 事前アンケート

本学の保育実習事前事後指導Ⅱは、保育所以外の児童福祉施設、障害者福祉施設などでの現場実習を円滑に実施し、学びを深めることをねらいとして、①施設実習の意義・目的を説明できる、②施設実習の内容を理解し、実習目標を設定する、③施設実習に必要なとされる基本的な態度、知識が身につく、④実習記録の書き方を理解して実践できる、⑤新たな課題や学習目標を示すことができる、の5つの到達目標を掲げている。

本調査では、この5つの到達目標のうち⑤を除いた4つの到達目標⁴⁾と授業計画に基づき保育実習事前事後指導Ⅱでの事前学習について15の質問項目を設定した。それぞれの質問項目について、事前学習の自己評価を「1. 全くできなかった」「2. あまりできなかった」「3. ややできた」「4. ととてもできた」の4段階で測定した。

また、自主学習（事前指導の授業および課題以外の取り組み）の取り組みについては、想定される15項目を設定し、自主学習の自己評価を「1. 全く行わなかった」「2. あまり行わなかった」「3. やや行った」「4. ととても行った」の4段階で測定した。

2) 事後アンケート

本調査は、石田・西村（2019）に基づき21の質問項目を設定した。それぞれの質問項目について、実習の自己評価を「1. 全くできなかった」「2. あまりできなかった」「3. ややできた」「4. とてもできた」の4段階で測定した。

4. 倫理的配慮

この事前アンケートおよび事後アンケートの結果については、施設実習の事前事後指導および実習内容の改善のための調査研究に使用すること、個人の回答は特定されないように分析を行うことを説明したうえで回答を求めた。また、回答内容は保育実習事前事後指導Ⅱおよび施設実習Aの評価には影響しない旨を説明した。

Ⅲ. 研究結果

1. 事前学習、自主学習、施設実習の自己評価の平均値

1) 事前学習の自己評価の平均の比較

表1は、事前学習の自己評価の平均値を高い順に示したものである。これをみると、上記5項目は、高い順に「障害児者施設の利用児者のプライバシーの保護と守秘義務を理解すること」（3.84）、「実習目標を設定する必要性を理解すること」（3.63）、「施設実習に必要とされる心構え・態度を理解すること」（3.60）、「障害児者施設の利用児者の人権と最善の利益の考慮を理解すること」（3.59）、「実習目標を明確に設定すること」（3.50）であった。

下位5項目は、低い順に「実習記録の書き方を理解すること」（2.94）、「障害児者施設の利用児者への対応を理解すること」（2.97）、「障害児者施設の利用児者の実態について理解すること」（3.07）、「障害児者施設の概要について理解すること」（3.17）、「障害について理解すること」（3.18）であった。

表1 事前学習の自己評価

項目	平均値	標準偏差
障害児者施設の利用児者のプライバシーの保護と守秘義務を理解すること	3.84	.364
実習目標を設定する必要性を理解すること	3.63	.529
施設実習に必要とされる心構え・態度を理解すること	3.60	.515
障害児者施設の利用児者の人権と最善の利益の考慮を理解すること	3.59	.517
実習目標を明確に設定すること	3.50	.566
事前学習の必要性を理解すること	3.47	.622
施設でのオリエンテーションの内容を理解すること	3.46	.621
施設実習の内容を理解すること	3.32	.493
施設実習のねらいを理解すること	3.24	.481
施設実習の意義を理解すること	3.24	.481
障害について理解すること	3.18	.646
障害児者施設の概要について理解すること	3.17	.505
障害児者施設の利用児者の実態について理解すること	3.07	.557
障害児者施設の利用児者への対応を理解すること	2.97	.644
実習記録の書き方を理解すること	2.94	.725

2) 自主学習の自己評価の平均の比較

表2は、自主学習（事前指導の授業および課題以外の取り組み）の自己評価の平均値を高い

順に示したものである。これをみると、上記5項目は、高い順に「実習センターの資料ファイルを閲覧する」(3.51)、「実習施設のホームページ等を閲覧する」(3.43)、「『実習の手引き』を読む」(3.16)、「実習生同士で話をする」(3.06)、「障害児者施設について調べる」(2.74)であった。

下位5項目は、低い順に「教員に個別に話を聞く」(1.36)、「障害児者とかかわる活動（アルバイト・ボランティア等）を行う」(1.54)、「施設実習Aを履修した先輩の話を聞く」(1.63)、「障害児者、障害児者施設に関するDVDを視聴する」(2.03)、「関連する授業のテキスト等を読む」(2.06)であった。

表2 自主学習の自己評価

項目	平均値	標準偏差
実習センターの資料ファイルを閲覧する	3.51	.585
実習施設のホームページ等を閲覧する	3.43	.704
『実習の手引き』を読む	3.16	.686
実習生同士で話をする	3.06	.755
障害児者施設について調べる	2.74	.801
障害児者への対応（支援、コミュニケーション等）について調べる	2.72	.783
障害について調べる	2.66	.690
保育実習事前事後指導IIのテキストを読む	2.51	.723
実習において想定される場面の対応を考える	2.50	.707
障害児者とのレクリエーション等について調べる	2.21	.727
関連する授業のテキスト等を読む	2.06	.676
障害児者、障害児者施設に関するDVDを視聴する	2.03	1.022
施設実習Aを履修した先輩の話を聞く	1.63	.930
障害児者とかかわる活動（アルバイト・ボランティア等）を行う	1.54	.926
教員に個別に話を聞く	1.36	.624

3) 施設実習の自己評価の平均の比較

表3は、施設実習の自己評価の平均値を高い順に示したものである。これをみると、上記5項目は、高い順に「実習施設の一日の生活の流れ」(3.94)、「利用児者の生活状況、活動状況」(3.67)、「利用児者との積極的な関わり」(3.64)、「利用児者とのコミュニケーション」(3.62)、「利用児者に対する支援法」(3.54)であった。

下位5項目は、低い順に「施設と家庭との連携のあり方」(2.83)、「施設職員の職業倫理」(2.91)、「施設と地域社会との連携のあり方」(3.03)、「利用児者のニーズの理解」(3.17)、「支援計画の意味・施設全体の援助の実態」「利用児者の個性に配慮した支援」(3.29)であった。

表3 施設実習の自己評価

項目	平均値	標準偏差
実習施設の一日の生活の流れ	3.94	.230
利用児者の生活状況、活動状況	3.67	.474
利用児者との積極的な関わり	3.64	.526
利用児者とのコミュニケーション	3.62	.552
利用児者に対する支援方法	3.54	.501
一人ひとりの利用児者に対する安全・衛生の配慮	3.53	.565
実習施設の概要	3.52	.502
施設職員の職務	3.49	.546

施設全体の安全・衛生に対する仕組みと個々の配慮	3.48	.545
利用児者にとってより良い生活や関わりのあるあり方	3.43	.542
実習施設の設立理念と支援の目標	3.39	.534
施設を利用する利用児者の実態	3.38	.510
利用児者の最善の利益を追求する施設全体の取り組み	3.36	.587
利用児者の特性に応じた支援計画のあり方	3.36	.624
職員間の役割分担とチームワーク	3.35	.588
利用児者の個別性に配慮した支援	3.29	.623
支援計画の意味・施設全体の援助の実態	3.29	.566
利用児者のニーズの理解	3.17	.566
施設と地域社会との連携のあり方	3.03	.648
施設職員の職業倫理	2.91	.574
施設と家庭との連携のあり方	2.83	.691

2. 事前学習の自己評価と施設実習の自己評価の関係

事前学習の各項目について、「できなかった（全くできなかった、あまりできなかった）」、「できた（ややできた、とてもできた）」の2グループに分けて、施設実習の自己評価の関係を検証した。t-検定の結果が有意であったのは、「障害について理解すること」、「障害児者施設の利用児者の実態について理解すること」、「障害児者施設の利用児者への対応を理解すること」、「実習記録の書き方を理解すること」である。

障害について理解することでは、「施設を利用する利用児者の実態」「利用児者の最善の利益を追求する施設全体の取り組み」「施設職員の職務」「施設全体の安全・衛生に対する仕組みと個々の配慮」「一人ひとりの利用児者に対する安全・衛生の配慮」の項目において有意な差がみられ、「できた」グループのほうが「できなかった」グループよりも自己評価の平均値が有意に高かった（表4）。

障害児者施設の利用児者の実態について理解することでは、「施設を利用する利用児者の実態」の項目において有意な差がみられ、「できた」グループの自己評価の平均値は3.42で、「できなかった」グループの3.09よりも有意に高かった。

障害児者施設の利用児者への対応を理解することでは、「施設を利用する利用児者の実態」「支援計画の意味・施設全体の援助の実態」「利用児者とのコミュニケーション」「利用児者の個別性に配慮した支援」「職員間の役割分担とチームワーク」「施設職員の職業倫理」「施設全体の安全・衛生に対する仕組みと個々の配慮」の項目において有意な差がみられ、「できた」グループのほうが「できなかった」グループよりも自己評価の平均値が有意に高かった（表5）。

実習記録の書き方を理解することでは、「施設を利用する利用児者の実態」の項目において有意な差がみられ、「できた」グループの自己評価の平均値は3.41で、「できなかった」グループの3.27よりも有意に高かった。

表4 障害について理解することにおいて有意な差がみられた項目

項目	できなかった	できた
施設を利用する利用児者の実態	3.25	3.40
利用児者の最善の利益を追求する施設全体の取り組み	3.08	3.40
施設職員の職務	3.25	3.53
施設全体の安全・衛生に対する仕組みと個々の配慮	3.25	3.51
一人ひとりの利用児者に対する安全・衛生の配慮	3.08	3.60

表5 障害児者施設の利用児者への対応を理解することにおいて有意な差がみられた項目

項目	できなかった	できた
施設を利用する利用児者の実態	3.25	3.41
支援計画の意味・施設全体の援助の実態	3.10	3.34
利用児者とのコミュニケーション	3.50	3.66
利用児者の個性性に配慮した支援	3.15	3.33
職員間の役割分担とチームワーク	3.15	3.41
施設職員の職業倫理	2.80	2.94
施設全体の安全・衛生に対する仕組みと個々の配慮	3.20	3.56

IV. 考察

1. 事前学習の自己評価に関する考察

事前学習の自己評価の平均値をみると、第1に「障害児者施設の利用児者のプライバシーの保護と守秘義務を理解すること」、「施設実習に必要とされる心構え・態度を理解すること」、「障害児者施設の利用児者の人権と最善の利益の考慮を理解すること」といった項目の自己評価が高く、施設実習に必要とされる基本的な態度はある程度できていると考えられる。

第2に「実習目標を設定する必要性を理解すること」「実習目標を明確に設定すること」といった項目の自己評価が高く、施設実習に向けての実習目標の設定はある程度できていると考えられる。

第3に「障害児者施設の利用児者への対応を理解すること」、「障害児者施設の利用児者の実態について理解すること」、「障害児者施設の概要について理解すること」、「障害について理解すること」といった項目の自己評価は高いとは言えない。保育実習事前事後指導Ⅱでの事前学習では、授業の3分の1を障害児者施設の概要、施設の利用児者への対応の学びに費やしているが、障害児者施設およびその利用児者の実態について理解を深めることがなかなか難しいということがうかがえる。

第4に「実習記録の書き方を理解すること」の自己評価が低く、実習記録の書き方の指導が課題であることが浮き彫りになった。保育実習事前事後指導Ⅱでの事前学習において実習記録の書き方の指導に費やしているのは1回の授業のみである。シラバスの授業計画上、授業回数を大幅に増やすことは難しいが、授業内容を見直すことにより実習記録の書き方の理解を深めていけるように工夫していくことが求められる。

2. 自主学習の自己評価に関する考察

自主学習の自己評価の平均値をみると、第1に「実習センターの資料ファイルを閲覧する」、「実習施設のホームページ等を閲覧する」といった項目の自己評価が高く、自分の実習する施設の概要を理解しようとする姿勢はうかがえる。「実習センターの資料ファイル」は、過去に実習を行った学生が振り返りとして実習施設の概要や実習内容等を記載したシートを施設ごとにまとめたものである。

第2に「教員に個別に話を聞く」、「施設実習Aを履修した先輩の話を聞く」といった項目の自己評価は低く、疑問に思うことや不安に思うことについて教員や先輩に話を聞きに行くことは積極的に行われていないことがうかがえる。保育実習事前事後指導Ⅱでの事前学習において教員や先輩に話を聞きに行くことを推奨したり、話を聞きに行きやすい雰囲気を作ったりすることが求められる。また、同じ施設で実習を行った先輩とつながりのない学生については、つながること

ができるように教員が仲介するなどの工夫も必要である。

第3に自主学習、つまり保育実習事前事後指導Ⅱの授業および課題以外の取り組みの自己評価は全体的に低い傾向がみられた。授業の振り返りでは、「もっと施設のことについて調べていきたい」、「実習までに障害について理解を深めておきたい」、「障害児者への対応について調べておく必要がある」といった感想を記載しているが、実際には授業外の自主学習は積極的に行われていない実態が明らかになった。参考文献などを具体的に示すなどして自主学習を促していく働きかけが必要である。

3. 事前学習の自己評価と施設実習の自己評価の関係に関する考察

事前学習において、「障害について理解すること」、「障害児者施設の利用児者の実態について理解すること」、「障害児者施設の利用児者への対応を理解すること」ができたと評価しているほうが、施設実習において「施設を利用する利用児者の実態」などの項目の自己評価が高くなっていた。このことは事前学習において障害児者施設およびその利用児者の実態の理解を深めることの重要性を示唆する。

また、事前学習において「実習記録の書き方を理解すること」ができたと評価しているほうが、施設実習において「施設を利用する利用児者の実態」の項目の自己評価が高くなっていた。

前述したように、「障害について理解すること」、「障害児者施設の利用児者の実態について理解すること」、「障害児者施設の利用児者への対応を理解すること」および「実習記録の書き方を理解すること」の項目の自己評価は高いとは言えない状況であるため、事前学習において障害児者施設およびその利用児者の実態の理解を深めること、実習記録の書き方の理解を深めることによって、施設実習の自己評価がさらに高まること、つまり施設実習での学びがより深まることが期待される。

V. おわりに

保育士養成課程の施設実習は10日間という短い期間であり、この短い期間でどこまで深い学びができるかは事前指導が果たす役割が大きい。本稿では、本学の保育実習事前事後指導Ⅱの事前学習において到達目標がどれくらい達成されているか、またそれが施設実習の自己評価にどのように関係しているかを検討してきた。さらに、保育実習事前事後指導Ⅱの授業および課題以外の自主学習の取り組みがどれくらいなされているかについても検討した。

今回の調査結果は保育実習事前事後指導Ⅱの事前指導の授業内容に関して示唆を与えるものも多くあったため、この結果をもとに事前指導の授業内容についてさらに検討を重ねていきたい。

注

- 1) 2019年4月に現代生活学部こども学科は改組されて教育学部こども教育学科となったが、施設実習Aおよび保育実習事前事後指導Ⅱのカリキュラム上の位置づけは変わっていない。
- 2) 「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」(雇児発0808第2号)では、保育士養成課程の保育実習Ⅰの施設実習の施設種別として「乳児院、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター(児童発達支援及び医療型児童発達支援を行うものに限る)、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所(生活介護、自立訓練、就労移行支援又は就労継続支援を行うものに限る)、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、児童相談所一時保護施設又は独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園」が規定されている。
- 3) 本稿では、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所の4つの施設種別をまとめて「障害児者福祉施設」と表記する。

- 4) 5つの到達目標のうち、「⑤新たな課題や学習目標を示すことができる」は、施設実習Aの実施後に行う内容であるため、事前学習の自己評価を行うことを目的とする本調査では除くことにした。

文献

- 東俊一・須河内貢・村田恵子（2003）「施設実習における実習生の目的・課題意識と学習内容に関する研究」『保育士養成研究』20、全国保育士養成協議会、25-40。
- 石田慎二・西村真実（2019）「保育士養成課程における施設実習の現状と課題」『帝塚山大学現代生活学部紀要』15、71-78。
- 室谷直子（2015）「保育士養成課程における実習指導の在り方－施設実習事前指導における実践と課題－」『常磐短期大学研究紀要』43、59-73。